

第 5 回 茂原市総合計画審議会 会議録

日時	令和 7 年 8 月 5 日（火）14：00～15：15
場所	茂原市役所 502 会議室
出席委員	関谷昇、鈴木明子、鬼島義昭、松本光男、丸岡一人、中山和人、中田文昭、板倉正典、千村文彦、保川貴俊、志水真美 (計 11 名、敬称略)
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 茂原市総合計画後期基本計画及び次期総合戦略の素案について (2) その他 3 閉会

【会議要旨】

2 議題

- (1) 茂原市総合計画後期基本計画及び次期総合戦略の素案について
〈事務局から資料に沿って説明。〉

委員

この素案の優れている点としては、次のとおり。

- ・市民アンケートや若者の意見を取り入れている。
- ・ウェル・ビーイングを用いている。
- ・SDGs との関係性を意識している。

問題点としては、次のとおり。

- ・人口減少対策に関する KPI が弱い。
- ・前期基本計画の評価が限定的となっている。
- ・P26 財政の見通しが「検討中」となっているが、ある程度示してもらわないと分からない。
- ・P42、43 コミュニティスクールに関するイメージが分かりづらいので、分かりやすくした方が良い。
- ・P43 図書館に関する記述を、もっと詳しくした方が良い。単なる蔵書の収集だけでなく、集まれる場所としての機能など。
- ・P58 地域福祉、P61 子育て支援、P64 高齢者福祉 に、民生委員、主任児童委員、社会福祉協議会に関する記述が無い。
- ・P62 施策 3 配慮を必要とする子どもや家庭への支援 に、民生委員や子どもの居場所、

貧困に関する記載をした方が良い。また、子ども食堂に関する記載をしても良いのではないかな。

・ P82 観光 で、ロケに力を入れているが、駅前に観光案内所が無く、「ロケのまち」として訪れても分からない。ロケ地に行って、レストランや菓子店などの店に行く、など、ストーリーが必要。観光協会が市役所にあるのも問題。

・ P116 施策 3 空き家対策の推進 の内容については、単なる空き家対策だけでなく、もっと踏み込んだ内容にした方が良い。山口市や神戸市などが先進的な取り組みをしているので、参考に。

・ P52 文化・芸術 で、飛行場跡地や掩体壕についても触れた方が良い。戦後 80 年であるので、もっと強化してほしい。

委員

中心市街地活性化計画は見直したのか。見直したのであれば、その内容を知りたい。

事務局

確認し、後日回答する。

委員

小中学生議会で出た意見はどこに反映されているのか。

事務局

SNS を活用した情報発信や、七夕まつり等、観光の魅力発信について記載している。

委員

図書館が商業施設とコラボするのは、千葉県内では 2 例目。今まで本に触れてこなかった人にも広がっていくのではないかな。もっと強化をして、計画に記載していったほしい。

コミュニティスクールの記載があるが、子ども会や自治会の加入率は低いので、もっと、地域で子どもを育てる、という意識を持ってもらうよう、市民参加のシステムの構築に力を入れてほしい。

道の駅建設や企業立地に関しても、「茂原市水害のない街づくりプロジェクト・チーム」のように、横断的に力を入れていったほしい。

ウェル・ビーイングの考え方についてはまだ市民の意識が薄い。こういうものだという巻末の用語説明だけでなく、この計画の要である、という説明を入れた方が良い。

委員

P27 で、総合戦略が総合計画に内包されているのは、市民に分かりづらいのではないかな。

事務局

総合戦略を総合計画の重点プロジェクトとして内包する、という構造は変更しないが、分かりやすい見せ方について検討する。

委員

P24 で、合計特殊出生率を高く掲げているが、P42 からの各論でそれに繋がる子育て支援の目玉施策がない。これでは、茂原で子どもを産みたい、とはならない。P123 で今回初めて個別に施策を出した「シティ・プロモーション」以上に施策出しが出来ないのであれば、合計特殊出生率を高く設定すべきではない。

また、P26 で、「財政の見通し」という表現は受け身である。そうではなく、こうして財源を確保し、財政を健全化していく、という積極的な表現にすべきである。

事務局

子育て支援に関して、目玉施策と言えるものはないが、「茂原市子ども・子育て支援事業計画」を策定している。

また、財政の健全化については、P130、131 に「適切な行財政運営」として記載をした。

委員

P60 子育て支援 に、「ベビーファースト宣言」についての記載を入れてほしい。

P64 高齢者福祉 に、フレイルについて追記をしてほしい。

P71 に「かかりつけ医」の普及啓発 とあるが、医師だけでなく薬剤師等もチームとなって行っているため、記載方法を検討して頂きたい。

P116 施策 3 空き家対策の推進 については、他の委員からもあったが、もっと強化してほしい。「空き家調査」という文言を入れた方が良い。

P132 施策 4 健全な財政運営の推進 (2) 財政運営の効率化・健全化 の表現が、「経費の抑制」や「市債残高の縮減」などネガティブな表現になっているため、もう少しポジティブな表現にした方が良い。

委員

茂原市は以前「第 2 の夕張になる」と言われたが、財源の問題は非常に重要。身の丈に合った施策を行っていくべき。道の駅、企業立地によりお金を生み出し、それにより施策を行っていくべきと考える。

または、財政上厳しいのであれば、お金でカバーできない気持ち、「心」の部分で勝負するという考えもある。お金をかけずにソフト面を充実させてはいかかがか。

副会長

ウェル・ビーイングの考え方は、看護学生が初めに覚えるもので、医療従事者にとって一般的である。「健全な個人」と「健全な社会」は違う概念であるが、個人の幸せの積み上げが地域幸福度に繋がっていく、ということがこの計画から読み取れた。

また、P29 の、総合戦略の基本目標の 4 つのうち 2 つが女性関連であるので、この審議会の委員も半分は女性にするなど、女性の意見を吸い上げる場が必要である。次回の策定を見据え、そういった場づくりに取り組んでいく必要があると感じる。

委員

全体的に表現が教科書的で、硬い表現である。市民のためには、一部にキャッチフレーズ的な言葉を入れたり、もっと分かりやすい言葉を使ったりした方が良いのではないかな。

また、他の委員からもあったが、ネガティブではなく、積極的な表現をもっと用いた方が良い。

事務局

計画の表現を変えるのは難しいが、簡単な表現にした「子ども版総合計画」の作成を予定している。

委員

P29 の、総合戦略の基本目標 1 と 2 のイメージが付きづらい表現であると感じる。

委員

P42 からの各論については、企画政策課だけが作るのではなく、各担当課が当事者意識を持って作るべき。また、計画に記載されている事業については優先的に予算が付くなど、イニシアチブを設ける、など財政部局と連携して行っていただきたい。

会長

総合計画は地方自治法、総合戦略は地方創生法と、策定の根拠は本来全く別のものであるが、総合計画に総合戦略を組み込む、という自治体が多い。また、一宮町など、総合計画を策定せず、総合戦略のみを策定している自治体もある。

今回の素案については、一つ一つのパーツは良いが、ストーリー性に欠けている。例えば、若者や女性に選ばれるまちにするにはどうするのか、財政が厳しいだけではなく、だからどうするのかという視点が必要。例えば、「コストをカットしていく」とか「収入増を目指す」とかいった視点が考えられ、そのために「人口を増やす」とか「企業誘致を行う」とかいう施策が付いてくる。その際、行政が出来ることには限界があるため、民間や地域との連携、協働など、5 年かけてストーリーを作っていく必要がある。

総合計画策定時に私が提言した「施策の対象となる領域」について、例えばP63、子育て支援の領域について、「生まれる・育つ・学ぶ」のみとなっているが、「働く」、「老いる」にも交わっていかなければならない。子育て支援課と高齢者支援課など、各担当課が交わるという発想が無いので、もっと横断的に考える必要がある。この計画自体が分野ごとに交わる必要性を生み出せていないため、人を動かすきっかけや施策づくりを仕掛けていてほしい。

また、広域連携という観点も弱い。受け身の姿勢では県は目を付けないので、拠点性を強め、県を呼び込むなど、ストーリー性を作っていく必要がある。

コミュニティ分野も弱い。例えばコミュニティスクールについても、学校に地域を入れ込む、という考え方では学校・教員がパンクしてしまう。そうではなく、地域に学校が飛び出していく、というイメージで、地域で教育を行っていく、という考え方が必要。

コミュニティを軸としたストーリーは色々あるが、茂原市はまちづくり協議会に関する動きが遅い。地域で何かを行いたい人の「入り口」が見当たらない状況になっている。例えば公民館や福祉センターの管理を地域コミュニティにゆだねるとか、地域からの仕掛けどころを作っていく必要がある。P120以降の施策は分野間の横ぐしとなりうるため、これを使って各部署がどう施策を作り上げていくか、練り上げて打ち出していく必要がある。

(2) その他

〈事務局にて、今後のスケジュールの確認〉

以上